

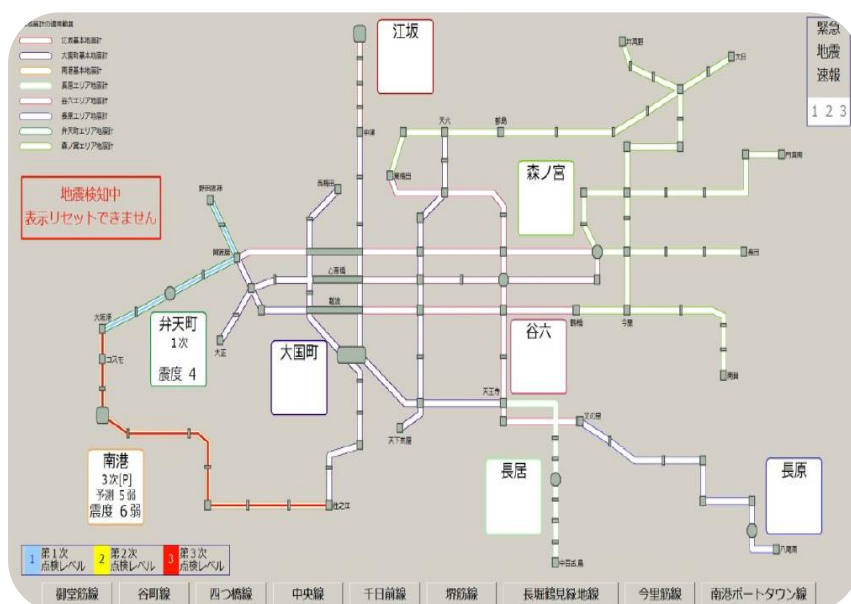
大規模災害・事故等を想定し備える

これまでの自然災害の教訓を踏まえ、大地震・津波・台風などに対する防災対策を徹底して推進しています。また、事故・自然災害及び安全輸送に支障を及ぼす恐れのある事態が発生した場合には、事故・災害対策本部を立ち上げ、関係部署が連携を図ることにより、迅速かつ的確な応急処置や復旧に努めています。

巨大地震への対応

巨大地震による激しい揺れは電車の運転に大きな影響を与えるため、気象庁からの緊急地震速報の展開に加え、基本地震計（3か所）及びエリア地震計（5か所）を設けています。地震の強さにより3段階の警報レベルを設定しており、警報レベルに応じて列車無線により乗務員に知らせ、速やかに運転処置を行います。

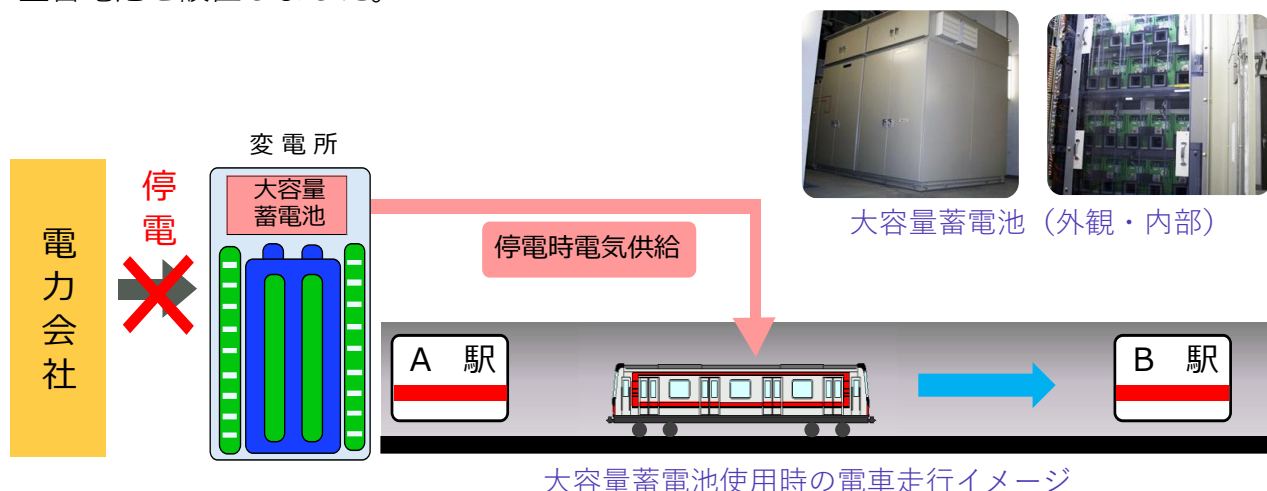
- 基本地震計とは**
 電車の運転を判断するための地震計
- エリア地震計とは**
 エリアごとの点検レベルを判断するための地震計



地震計配置図

お客さまを次の駅まで確実に輸送

地震発生時に電力会社からの電力供給が途絶えても、駅間にある電車が立ち往生することなく次駅まで運転することができるよう、津波浸水範囲の路線の中で必要な区間に大容量蓄電池を設置しました。



大容量蓄電池使用時の電車走行イメージ

大規模災害・事故等を想定し備える

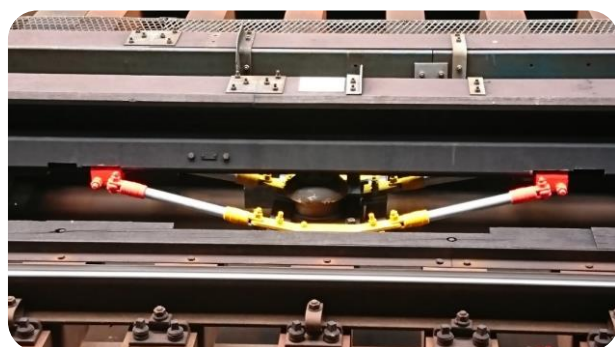
耐震対策

2019年6月末に、地震の揺れによる高架部のサードレールの脱落を防止する耐震アンカレッジの取付けを完了しました。

2021年度末までには、耐震対策として東日本大震災などから得られた知見・基準等を踏まえ、高架橋やトンネルのさらなる耐震対策に取り組めます。2025年度末までには、液状化対策として、地震後、通常通り車庫から電車が出発できるよう地盤改良に取り組めます。さらに、地震による電車脱線による被害拡大を防止するために、脱線対策ガード付きまくらぎや脱線防止レールを導入します。



耐震補強工事



サードレール脱落防止



対策前



対策後

落橋防止工事

浸水への対応

2013年8月に大阪府から南海トラフ巨大地震に伴う津波の浸水範囲が公開され、大阪市内沿岸部には3m程度の津波が2時間以内に到達すると想定されています。このため、Osaka Metroではお客さまの迅速な避難や施設防護の設置に取り組んでおり、地下～高架移行区間における側壁のかさ上げや換気口に対してもかさ上げを実施しています。また気象庁や関係自治体などから情報を収集し対策に取り組んでいます。

対策前



側壁のかさ上げ



対策後

対策前



対策後



換気口かさ上げ

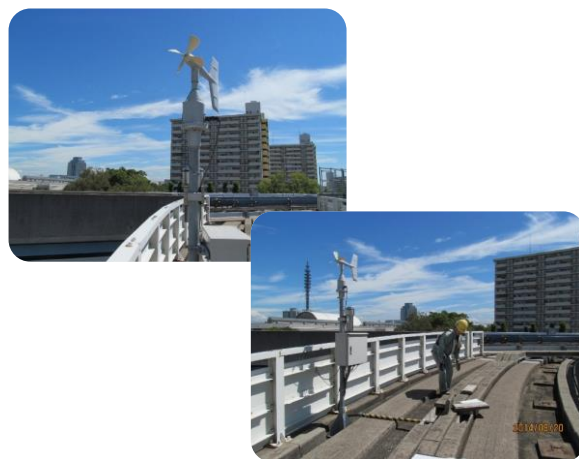
台風・強風への対応

強風は電車の運転に大きな影響を与えます。Osaka Metroでは地上を運転する区間（御堂筋線、中央線、南港ポートタウン線）の安全運行を確保するため5箇所に風向風速計を設け、風速に応じて電車の運転取扱いを定めています。

風向風速計

地下鉄では、風速が20メートル毎秒以上になったとき、地上部を走行する電車は時速40キロメートル以下の注意運転を行い、風速が25メートル毎秒以上になったときは、全線または一部区間の運転を休止します。

また、南港ポートタウン線では、風速が20メートル毎秒以上になったとき、駅から出発する電車の運転を休止し、駅間にある電車は時速25キロメートル以下で次駅まで運転ののち運転を休止し、風速が25メートル毎秒以上になったときは、全線の運転を休止します。



風向風速計

路線	設置箇所
御堂筋線	新淀川橋梁部
中央線	天保山運河及び大阪港～朝潮橋間
南港ポートタウン線	南港水路橋地点及び中ふ頭

台風接近時の対応

台風接近時の予報を基にタイムラインを作成し、台風の位置、規模、気圧などの気象情報を整理し、台風接近から通過後までのその時点でどのような判断や確認をするべきかを明確にし、本社対策本部において、対応策や地上部区間の計画運休などの決定、お客さまへの情報提供などを行うこととしています。

台風対応訓練の実施

台風接近を想定し、タイムラインを活用した本社対策本部での台風対応訓練を行い、計画運休の決定やお客さまへの情報提供のタイミングなどを確認しました。



タイムラインとは (国土交通省HPより)

災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画です。防災行動計画とも言います。

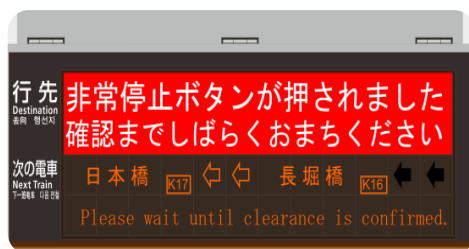
国、地方公共団体、企業、住民等が連携してタイムラインを策定することにより、災害時に連携した対応を行うことができます。

大規模災害・事故等を想定し備える

緊急時の多言語放送・表示

地下鉄・ニュートラムは、国内だけでなく、海外からもたくさんのお客さまにご利用いただいています。緊急事態が起きたときは、国内のお客さまのみならず、海外からのお客さまへの情報提供が欠かせません。

Osaka Metroでは、全ての地下鉄・ニュートラムにて、緊急時の案内をホームに設置している行先接近表示器にて多言語で表示しています。また、多言語での放送を2021年度より順次導入してまいります。海外からのお客さまに安全・安心を感じていただけるよう設備の改善に努めています。



(堺筋線)



(千日前線)



(今里筋線)

行先接近表示器に表示される多言語表示例

Osaka Metro緊急章・事故災害発生時必携の携帯

事故や災害が発生した際、駅や列車内に居合わせた社員が、『Osaka Metro緊急章』を胸などに貼り付け、お客さまの避難誘導や救護の応援が出来るよう配布しています。

その際、Osaka Metro社員がとるべき行動や心構えを簡潔に記した『事故・災害発生時必携』も配布し、『Osaka Metro緊急章』と共に常に携帯しています。



Osaka Metro緊急章



事故災害発生時必携



緊急章貼り付け (イメージ)